

チモシ一雪印改良一號

## 解說

本誌二月号にてオーチャード改良種について解説したが、今回はこれに続いてチモシーの改良種について解説いたします。

中原一號

一、改良目的 晚生、多収、チモシーは寒冷地においては最も栽培面積の多いいね科牧草である。その栽培の多くは赤クロバヒと混播され乾草製造が行われているが、在来種一本槍では刈取、乾燥も短期間に行わなければならぬいため、作業労力、天候等により、往々にして収穫適期を逸したり、品質の低下を来したりするので、これらの困難を補うために、晚生でしかも多収品種

るが、葉は幅広く大きい。  
**四、利用上の注意** 前記の晩生、多収である特性に鑑み、次のような場合に利用して有利である。

(1) 多収を目的とする場合 (特に生育期間の長い温暖地において)  
(2) 乾草製造において在来種一本の労力の一時集中と、  
取穫期の悪天候を避けるための品種配合



### 3 チモシー雪印改良一號

#### 4 チチシー在來種

(イ) 青刈連続籠上、在来種の一番と二番の中間利用を目的として、マンソス赤クロバー、アルサイククロバー等を本改良種と混播する。

(ロ) 北海道の東北部、又は府県高冷地で在来種チモシーでも二番刈のあまり期待できないような生育期間の短い地帶の一回刈用として良い。



## チモシー雪印改良一號生育狀況

チモシ一 在來種		品種名		調査項目		家畜嗜好	
四元	六四	七六	六三	二六	二八	二七	二元
元日	六月三日	七月日	六月三日	種	五種	六種	三〇本
期生起	期穗出	期熟成	期取刈	草	丈	尺間	収量
四年目	三年目	平均	二年目	二年目	三年目	平均	調査
反当り	生草重量	割合上	反当り	生草重量	割合上	反当り	調査
刈六・六六	七三・貰矣	貰	六四六四	七三・貰矣	貰	二七・貰	良
六六六六	六六六六	六六七四	三六六四	三六六四	三六七四	二九三三	良
三六六六	三六六六	三六七四	二九三三	二九三三	二九七四	二七七四	良
三六六六	三六六六	三六七四	二九三三	二九三三	二九七四	二七七四	良

三、特性 様性概要是次表の如くで、在来種に比し約十日程出穂が遅れ、収量は約二割の增收で、莖は太く若干粗鶴氣味であ

1 畦幅二尺条播 反当播種量三听（三六〇匁）  
2 施肥量 硫安五貫 過石三貫 硫加三貫を毎春畦間に施し中耕攪土  
3 播種 昭和二十三年八月下旬